

# 序 文

「ビジュアルサージカル」シリーズの最終巻となる『手術の基礎知識』をお届けする。

若手や専門医を目指す消化器外科医に向けて、これまで各領域における基本的な手術についての考え方や手技について、図表やイラストに加えてビデオを用いてわかりやすく解説してきた。しかしながら、これらの手術を安心、安全に行うためには共通した、そして基本的な知識が不可欠である。

消化器外科手術の中心は臓器の切離と再建である。解剖を熟知し、正しい層で臓器を剥離し、適切な部位で切除・切離すると同時に、胆管や膵管を含めた消化管の再建が必須となる。

そのためには、数ある手術道具の特性と役割を理解し正しく使用すること、手術を行いやすい術野を確保するための体位や開腹部位を選択すること、適切なドレーンの挿入と管理を行うことなど、基礎的な知識を習得することが必要である。これらによって、合併症を予防し、スムーズな術後経過、そして患者のQOLの維持、向上を図ることができる。

本書ではこれらの基礎知識に加えて、最近目覚ましく発達しているさまざまな器械・機器についても、その原理を含めて詳しく解説するとともに、ビデオでもわかりやすく示している。これらの器械の優れた特性を理解することにより、スムーズでスピーディな手術が可能となる。しかしその一方で、器械の操作を誤ると予期せぬ重大な合併症を引き起こすことになる。つい器械に頼りがちになりやすい傾向があるが、もって肝に銘じるべきことと思う。

いずれにしても手術の基礎は手技と道具から成り立っている。それぞれの基本的な知識の習得が治療成績を左右するといっても過言ではない。本書がその目的のために役立つことを祈り、そして確信している。

最後になるが、本書の編集・制作にあたり、大変丁寧に、そして細かな点について詳しく解説していただき、画像を提供していただいた執筆者の先生方、そしてさまざまな注文に快く応じていただいた学研メディカル秀潤社の谷口陽一氏に、心より感謝を申し上げます。

2019年8月

公立昭和病院 院長／東京大学名誉教授

上西 紀夫

杏林大学医学部外科（消化器・一般外科） 教授

正木 忠彦